



発行所
網走南ヶ丘高校
報道局
発行責任者
歌丸 晃成

南高100周年 新たな時代へ 式典の立役者たち

11月12日(土)に創立100周年を記念した式典が本校体育館で行われた。式典では、協賛会長の挨拶をはじめ、創立100周年記念事業の目録や、感謝状の贈呈が行われたほか、北海道教育委員会教育長や網走市長からは祝辞が述べられ、式典は滞りなく無事終了した。

また、式典の成功には、司会進行や代表挨拶、パンフレットのイラスト作成など、いろいろな人たちの協力が必要不可欠だったと言える。そこで今回は式典において重要な役割を果たした人達にスポットを当てていく。



▲司会進行をする兼田さん

100周年という記念すべき節目に、司会を務めたのは、3年C組、放送局の兼田桃香さん。

なぜこの仕事を引き受けたのかを尋ねると「きっかけは顧問である奥山先生からの誘いだった。加えてちよいと式典前は先輩たちの新人戦の練習期間だったの、先輩達には新入生大会に専念してほしいという思いもあり、司会を引き受けた」と答えてくれた。また、司会進行をする上で意識したことについて「ハキハキゆっくりと相手に聞こえるように話す」「人の名前を呼ぶときは正確に」という2つのことに気をつけたそう。

特に後者は100周年を記念する場で来賓の方々も多く来ているのに加え、司会をする上で「人の名前を間違え」ということは

「緊張しなかった」

先生や来賓の方々、さらには全校生徒の前で、司会は緊張するのではないかと局員は予想したが、兼田さんは「不思議なこと、緊張は一切しなかった。緊張よりも間違えないようにしなければという思いが強かったからかもしれない」と語った上で、「当日は3年生が少なく、今まで司会を務めてきた経験から自分に自信がついていたので、自分が思ったとおりの司会進行ができたのだと思う」と付け加えた。

後輩たちへ

最後に、「高校に入學したばかりの自分は自信が持てず、私なんか...という考え方をしていたが、2年生から司会をやっていくうちに、結果として今みんなの前で堂々と司会ができるようになった。」と述べ、放送局の後輩たちには、「自分の声を届けたいという気持ちをお忘れないうちに、これから司会をすることがあつたら全力で自信を持って挑んでほしい」と思っている」と次世代への期待を込めたエールを送り、取材を締めくくった。

節目の年に卒業する思い 100周年卒 3年次生アンケート

- 100年目
- ・節目の年に卒業できてうれしい。
 - ・大人になった時思い出そう。
 - ・素晴らしいことだと思う。
 - ・とてもすごいことだと思う。
 - ・人生で1度きりの体験。
 - ・嬉しく、誇らしく思う。

人生一番の喜びに

南高に期待したいこと

- ・部局活動の活躍。
- ・伝統を守ってほしい。
- ・もっと盛り上げてほしい!
- ・明るいままでいてほしい。
- ・伝統をつなぎつつ、新しいことにも挑戦してほしい。

後輩たち、こんな姿であってほしい

- ・頼れる姿。
- ・勤勉であってください。
- ・応援される人。
- ・高校生活を後悔のないように過ごして欲しい。
- ・勉強も部活も両立して頑張って協力し合いながら自分の夢に向かって頑張る姿。



▲取材を受ける佐々木さん

イラスト 2B 佐々木さん

絵を考察すること

この絵を通して伝えたかったことはという局員の問いに対して、「みんなの緩やかなつながり」というテーマを元にして絵の構図を考えたと、このことを最

式典のしおりに掲載されているイラストを担当したのは、2年B組の佐々木ひかりさん。

「記念式典は学校をあげて行う行事だったので、多くの生徒に自分の絵を見てもらえるかもしれないという気持ちがあった。もし見てもらえたのなら、それがこれから絵を描いていく時に何よりのモチベーションになる」と笑顔でこの仕事を受けた理由を答えてくれた。



▲しおりに掲載されている絵

今回佐々木さんが描いた絵は「ペン画」という種類に分類されるもので、さらさら、つやつやとした質感が特徴。佐々木さんはこの様式で絵を描くことを得意としているそう。で、「将来的にはイラストレーターという立場においてペン画の技術を使っておきたい」とこれからの展望を語り、インタビューは終了した。

将来に向けて

今佐々木さんが描いている絵は「ペン画」という種類に分類されるもので、さらさら、つやつやとした質感が特徴。佐々木さんはこの様式で絵を描くことを得意としているそう。で、「将来的にはイラストレーターという立場においてペン画の技術を使っておきたい」とこれからの展望を語り、インタビューは終了した。